

薬生食輸発0330第1号
令和3年3月30日

各検疫所長 殿

医薬・生活衛生局食品監視安全課
輸入食品安全対策室長
(公印省略)

食品衛生法第26条第3項に基づく検査命令の実施について

標記について、令和3年度における取扱いを下記のとおりとしますので、御了知の上、関係事業者への周知方よろしくお願いします。

記

1 実施期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

2 検査命令の対象及びその内容

別添1に定める対象国・地域かつ製品検査の対象食品等について、輸入届出の都度、輸入者に対して、別添1に定める内容に従い、登録検査機関の行う製品検査を受けるよう命ずること。

なお、別添1に定める条件のうち、検査命令の実施に係る別途指示については別添2の1、検査命令の免除に係る別途指示については別添2の2、証明書等の様式については別添3に示すとおりとする。

3 その他

本通知により示した検査命令の対象食品等以外であって、輸入届出の審査の際に検査を命ずる必要があると判断された場合にあっては、生活衛生・食品安全企画課検疫所業務管理室を通じて当室あて照会すること。

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|---|--|--|--|--|--|
| 全輸出国 | フグ | 現場検査の結果、異種フグが発見されたものに限る。 | 魚種鑑別 | - | フグの種類を鑑別を行うこと。 | 有毒フグが混入しているおそれがあるため。 |
| | すじこ | - | 亜硝酸根 | 別表3によること。 | 平成12年3月30日付け衛化第15号「食品中の食品添加物分析法について」によること。 | 成分規格(0.005g/kg)又は使用基準(残存量として0.0050g/kg)を超える亜硝酸根が検出されるおそれがあるため。 |
| | 乾燥いちじく | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて含有しているおそれがあるため。 |
| | キャッサバ及びその加工品(でんぷんを除く。) | - | シアン化合物 | 別表1の3によること。 | 平成14年11月21日付け食基発第1121002号及び食監発第1121002号別添「タピオカでんぷん中のシアン化合物試験法」によること。 | シアン化合物を含有しているおそれがあるため。 |
| | シアン化合物含有豆類 | - | シアン化合物 | 別表1の3によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | シアン化合物を含有しているおそれがあるため。 |
| | ピスタチオナッツ | イタリア産及び米国産にあつては各々の項によること。 | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 ただしイラン産殻付きピスタチオナッツについては、貨物1コンテナ分(20feet)を1ロットとし、1ロットを8分割した後、各分割の全ての容器包装から検体を採取することとし、1分割あたり5kg(可食部)採取したものを検体(合計8検体)とすること。(注2) | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて付着しているおそれがあるため。 |
| | ブラジルナッツ、アーモンド、チリペッパー、レッドペッパー、ナツメグ及びハトムギ | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 ただし中国産ハトムギについては、貨物1コンテナ分(20feet)を1ロットとし、1ロットを8分割した後、各分割の全ての容器包装から検体を採取することとし、1分割あたり5kg採取したものを検体(合計8検体)とすること。(注2) | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて付着しているおそれがあるため。 |
| | ミックススパイス及びミックスナッツ | 落花生、ピスタチオナッツ、ブラジルナッツ、アーモンド、チリペッパー、レッドペッパー、ナツメグ及びハトムギのいずれか又はその合計の含有量が10%以上のものに限る。 | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 落花生及びその加工品(落花生を10%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 炭酸水素アンモニウム及びこれを含む食品 | BROADTECH CHEMICAL INTERNATIONAL CO.,LTD.が製造した炭酸水素アンモニウムに限る。 | メラミン | 別表1の2によること。 | 平成20年10月2日付け食安監発第1002003号「食品中のメラミンの試験法について」によること。 | メラミンが使用されているおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|---|-----------------------|--|-------------|--|--|
| イタリア | 非加熱食肉製品 (加熱せずに食すものに限る。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | 非加熱食肉製品の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ソフト及びセミハードタイプのナチュラルチーズ | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ソフト及びセミハード(MFFB61%以上のもの)タイプのナチュラルチーズ(注3) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ナチュラルチーズ | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O26 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O26で汚染されているおそれがあるため。 |
| | ピスタチオナッツ及びその加工品 (ピスタチオナッツを30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| イラン | ピスタチオナッツ及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | イミダクロプリド | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.04ppm)を超えるイミダクロプリドが検出されるおそれがあるため。 |
| インド | 養殖えび(ブラックタイガー(ウシエビ)を除く。) 及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | フラゾリドン | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | フラゾリドンが残留しているおそれがあるため。 |
| | アーモンド加工品 (アーモンドを30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて含有しているおそれがあるため。 |
| | ケツメイシ(エビスグサ(ロッカクソウ)の種子) 及びその加工品 (ケツメイシを30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 紅茶 | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | ヘキサコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるヘキサコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | とうがらし及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | トリアゾホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるトリアゾホスが検出されるおそれがあるため。 |
| | とうもろこし(粉を含む。甘味種を除く。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | フェネルの種子及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | トリアゾホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるトリアゾホスが検出されるおそれがあるため。 |
| | メボウキの種子(バジルシード) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着しているおそれがあるため。 |
| インドネシア | 生食用切り身まぐろ | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | サルモネラ属菌 | 別表1の4によること。 | 平成5年3月17日付け衛乳第54号別紙1の第3の1の(3)「サルモネラ属菌試験法」によること。 | サルモネラ属菌で汚染されているおそれがあるため。 |
| エクアドル | カカオ豆及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | 2, 4 - D | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超える2, 4 - Dが検出されるおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|--|--|--------------------------|--|---|---|
| オランダ | セルリアック及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | クロルプロファミ | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルプロファミが検出されるおそれがあるため。 |
| カナダ | ロブスター(大西洋沿岸で採取されたもので、甲殻内の肝臓及び胃等を含む可食内臓部位に限る。)及びその加工品 | 別途指示する輸出者から輸出されたものであって、かつ別途示すカナダ政府が発行したロブスター管理に係る証明書が添付されているものを除く。 | 麻痺性貝毒 | 別表1の5によること。 | 昭和55年7月1日付け環乳第30号「貝毒の検査法等について」によること。 | 規制値(4MU/g)を超える麻痺性貝毒が検出されるおそれがあるため。 |
| | 亜麻及びその加工品 | - | 安全性未審査の遺伝子組換え亜麻(FP967) | 平成24年11月16日付け食安発1116第4号「安全性未審査の組換えDNA技術応用食品の検査方法の一部改正について」によること。 | 平成24年11月16日付け食安発1116第4号「安全性未審査の組換えDNA技術応用食品の検査方法の一部改正について」によること。 | 安全性未審査遺伝子組換え亜麻(FP967)が検出されるおそれがあるため。 |
| 韓国 | 豚肉 | 別途指示する処理場において処理されたものを除く。 | スルファジミジン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.10ppm)を超えるスルファジミジンが検出されるおそれがあるため。 |
| | 活鱧 | 別途示す韓国政府が発行したオキシソリニック酸に係る証明書が添付されているものを除く。 | オキシソリニック酸 | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.1ppm)を超えるオキシソリニック酸が検出されるおそれがあるため。 |
| | 養殖ひらめ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示する登録養殖場、加工場及び輸出者であって、かつ別途示す韓国政府が発行したオキシテトラサイクリン及びエンロフロキサシンに係る証明書が添付されているものを除く(冷蔵ひらめ肉については、韓国政府の養殖ひらめの証明書及び冷蔵ひらめ肉確認証明書の2枚1組で構成されていること)。 | オキシテトラサイクリン エンロフロキサシン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.2ppm)を超えるオキシテトラサイクリンが検出されるおそれ及びエンロフロキサシンが残留しているおそれがあるため。 |
| | 養殖ひらめ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示する養殖業者が出荷した、活又は生鮮のもの(加熱加工用を除く。)に限る。 | クドア・セプテンブククター | 別表1の8によること。 | 平成28年4月27日付け生食監発0427第3号「Kudoa seputempunctataの検査法について」によること。 | 1.0×10 ⁶ 個を超えるクドア・セプテンブククター孢子が検出されるおそれがあるため。 |
| | 二枚貝及びその加工品(貝柱のみのホタテガイを除く。) | 別途示す韓国政府が発行した原産地証明書が添付されているものを除く。 | 麻痺性貝毒 | 別表1の5によること。 | 麻痺性貝毒: 昭和55年7月1日付け環乳第30号「貝毒の検査法等について」によること。 | 規制値(麻痺性貝毒:4 MU/g)を超える貝毒が検出されるおそれがあるため。 |
| | | | - | 下痢性貝毒 | 別表1の5によること。 | 下痢性貝毒: 平成27年3月6日付け食安基発0306第4号・食安監発0306第2号「下痢性貝毒(オカグ酸群)の検査について」によること。 |
| | 生食用アカガイ | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ピブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | 生食用タイラギガイ | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ピブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| キムチ | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O103 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O103で汚染されているおそれがあるため。 | |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|---|---|----------------------------------|---|---|---|
| 韓国 | 青とうがらし及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 別途指示する韓国政府により輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出された生鮮青とうがらしを除く。 | フルキンコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるフルキンコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | エゴマ及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | インドキサカルブ バクロプラゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるインドキサカルブ及び基準値(0.01ppm)を超えるバクロプラゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | トマト及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 別途指示する韓国政府により輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出された生鮮トマトを除く。 | フルキンコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるフルキンコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | ミニトマト及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 別途指示する韓国政府により輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出された生鮮ミニトマトを除く。 | フルキンコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるフルキンコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | パプリカ(ジャンボピーマン)及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 別途指示する韓国政府により輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出された生鮮パプリカを除く。 | クロルピリホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.5ppm)を超えるクロルピリホスが検出されるおそれがあるため。 |
| | まくわうり(漬物用まくわうりを除く。)及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 別途指示する韓国政府により輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出された生鮮まくわうりを除く。 | クロルフェナビル | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルフェナビルが検出されるおそれがあるため。 |
| 北朝鮮 | ハタハタ | 加工品を除く。 | 鉛片の混入 | - | 全量について金属探知器による鉛片の混入の有無を確認すること。 | 鉛片が混入しているおそれがあるため。 |
| | 二枚貝及びその加工品 (貝柱のみのホタテガイを除く。) | - | 麻痺性貝毒 | 別表1の5によること。 | 昭和55年7月1日付け環乳第30号「貝毒の検査法等について」によること。 | 規制値(4MU/g)を超える麻痺性貝毒が検出されるおそれがあるため。 |
| ケニア | コーヒー豆及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | 2, 4 - D | 別表1の3によること。 ただし、コンテナによるバルク形態で輸入される食品については、ロットを代表する任意の1コンテナ内の上部、中部、下部の計15か所から計10kg以上を採取したものを縮分して1kg、1検体とすること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超える2, 4 - Dが検出されるおそれがあるため。 |
| コートジボワール | カカオ豆 | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB1、B2、G1及びG2の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10µg/kgを超えて付着しているおそれがあるため。 |
| | カカオ豆及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | 2, 4 - D | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超える2, 4 - Dが検出されるおそれがあるため。 |
| スイス | 非加熱食肉製品 (加熱せずに食すものに限る。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | 非加熱食肉製品の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| スペイン | 非加熱食肉製品 (加熱せずに食すものに限る。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | 非加熱食肉製品の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| スリランカ | 赤とうがらし及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | トリアソホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるトリアソホスが検出されるおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|--------------------------|---|---|---------------------|---|---|--|
| タイ | 生食用えび(生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類に限る。) | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ビブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ゆでがに(飲食に供する際に加熱を要しないものに限る。) | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ビブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | ゆでがにの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | オオバコエンドロ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | クロルピリホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルピリホスが検出されるおそれがあるため。 |
| | おくら及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示するタイ政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ別途指示する輸出者から輸出された生鮮おくらを除く。 | EPN | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるEPNが検出されるおそれがあるため。 |
| | グリーンアスパラガス及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示するタイ政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ別途指示する輸出者から輸出された生鮮グリーンアスパラガスを除く。 | EPN | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるEPNが検出されるおそれがあるため。 |
| | ドリアン及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | プロシミドン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるプロシミドンが検出されるおそれがあるため。 |
| | バナナ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示するタイ政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ別途指示する輸出者から輸出された生鮮バナナを除く。 | シベルメトリン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.03ppm)を超えるシベルメトリンが検出されるおそれがあるため。 |
| | マンゴー及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 生鮮マンゴーにあっては、別途指示するタイ政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ別途指示する輸出者から輸出されたものを除く。 冷凍カットマンゴー及びフリーズドライマンゴーにあっては、別途指示する製造者が製造したもので、かつ別途指示するタイ政府が発行したクロルピリホス及びプロピコナゾールに係る証明書が添付されているものを除く。 | クロルピリホス プロピコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.05ppm)を超えるクロルピリホス及び基準値(0.01ppm)を超えるプロピコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | | - | シベルメトリン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.03ppm)を超えるシベルメトリンが検出されるおそれがあるため。 |
| マンゴスチン及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示するタイ政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ別途指示する輸出者から輸出された生鮮マンゴスチンを除く。 | イマザリル | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.02ppm)を超えるイマザリルが検出されるおそれがあるため。 | |
| 台湾 | 豚肉 | 別途指示する処理場において処理されたものを除く。 | スルファジミジン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.10ppm)を超えるスルファジミジンが検出されるおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|---|---|----------------|--|--|---|
| 台湾 | 養殖鰻及びその加工品 (白焼き及び蒲焼きに限る。) | 別途示す台湾行政院農業委員会漁業署が発行した輸出証明書が添付されているものを除く。 | スルファジミジン | 別表1の4によること。 | 鰻及び白焼き鰻: 平成5年4月1日付け衛乳第78号別添2「畜水産食品中の残留合成抗菌剤の一斉分析法」によること。 蒲焼き鰻: 平成16年3月31日付け食安輸発第0331002号別添2の別紙「ウナギ蒲焼きの合成抗菌剤一斉分析法」によること。 | スルファジミジンが残留しているおそれがあるため。 |
| | 切り身のテラピア(イズミダイ) (スモーク品(薫製品)と称しているものを含む。) | 現場検査において、鮮紅色を呈することが確認されたものに限る。ただし、平成10年1月16日付け衛乳第6号及び衛化第1号に基づき一酸化炭素による処理をされていないと判断されたものを除く。 | 一酸化炭素 | 別表1の2によること。 | 平成25年4月4日付け食安監発0404第3号「鮮魚中の一酸化炭素の検査法について」によること。 | 一酸化炭素が使用されているおそれがあるため。 |
| | 食品 (未加工品、簡易な加工品、食用油脂、塩及び塩のみで調味したものを除く。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | サイクラミン酸 | 別表1の1によること。 | 平成15年8月29日付け食安監発第0829010号「サイクラミン酸に係る試験法について」によること。 | サイクラミン酸が使用されているおそれがあるため。 |
| 中国 | 養殖鰻及びその加工品 | 別途指示する養殖場で養殖及び加工場で加工されたものであって、別途示す中国政府が発行したオキシリニック酸に係る証明書が添付されているものを除く。 | オキシリニック酸 | 鰻については別表1の4によること。 加工品については別表1の7及び平成19年8月8日付け食安輸発第0808002号によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.1ppm)を超えるオキシリニック酸が検出されるおそれがあるため。 |
| | 養殖鰻及びその加工品 (白焼きに限る。) | 別途指示する養殖場で養殖及び加工場で加工されたものを除く。 | スルファジミジン | 鰻については別表1の4によること。 加工品については別表1の7及び平成19年8月8日付け食安輸発第0808002号によること。 | 平成5年4月1日付け衛乳第78号別添2「畜水産食品中の残留合成抗菌剤の一斉分析法(改定法)」によること。 | スルファジミジンが残留しているおそれがあるため。 |
| | 生食用ウニ | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ピブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | スッポン及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | エンロフロキサシン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | エンロフロキサシンが残留しているおそれがあるため。 |
| | 二枚貝及びその加工品 (貝柱のみのホタテガイを除く。) | 淡水産であることを示す中国政府の証明書が添付されているものを除く。 | 麻痺性貝毒 下痢性貝毒 | 麻痺性貝毒については別表1の5に、下痢性貝毒については別表1の6によること。 | 麻痺性貝毒: 昭和55年7月1日付け環乳第30号「貝毒の検査法等について」によること。 下痢性貝毒: 平成27年3月6日付け食安基発0306第4号・食安監発0306第2号「下痢性貝毒(オカダ酸群)の検査について」によること。 | 規制値(麻痺性貝毒:4 MU/g、下痢性貝毒:0.16 mgOA当量/kg)を超える貝毒が検出されるおそれがあるため。 |
| | あさり及びその加工品 | - | プロメトリン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるプロメトリンが検出されるおそれがあるため。 |
| | たまねぎ及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | チアマトキサム | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.02ppm)を超えるチアマトキサムが検出されるおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|---|---|-----------------------------------|--|---|---|--|
| 中国 | にんじん及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | ジトモルフ トリアジメノール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるジトモルフ及び基準値(0.1ppm)を超えるトリアジメノールが検出されるおそれがあるため。 |
| | にんにくの茎及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | チアマトキサム プロシミドン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるチアマトキサム及び基準値(0.01ppm)を超えるプロシミドンが検出されるおそれがあるため。 |
| | ばれいしょ及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | ハロキシホップ | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるハロキシホップが検出されるおそれがあるため。 |
| | ブロッコリー及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | プロシミドン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるプロシミドンが検出されるおそれがあるため。 |
| | ほうれんそう及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | 加工品にあっては、別途指示する加工企業のほうれんそう加工品に限る。 | エンドリン クロルピリホス | 別表1の3によること。 | クロルピリホス： 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 エンドリン： 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルピリホスが検出されるおそれ、エンドリンが検出されるおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する加工企業のほうれんそう加工品に限る。 | エンドリン | 別表1の3によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | エンドリンが検出されるおそれがあるため。 |
| | もろこし(こうりゃん等) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 花椒(学名: <i>Zanthoxylum bungeanum</i>) 及びその加工品(花椒を30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 食品 (未加工品、簡易な加工品、食用油脂、塩及び塩のみで調味したものを除く。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | サイクラミン酸 | 別表1の1によること。 | 平成15年8月29日付け食安監発第0829010号「サイクラミン酸に係る試験法について」によること。 | サイクラミン酸が使用されているおそれがあるため。 |
| 食品 (平成19年7月6日付け食安発第0706002号(最終改正:平成30年11月28日付け食安発1128第4号)に示すもの。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 放射線照射 | 別表1の2によること。 | 平成19年7月6日付け食安発第0706002号「放射線照射された食品の検知法について」によること。 | 放射線照射がおこなわれているおそれがあるため。 | |
| トルコ | ひよこ豆及びその加工品(ひよこ豆を30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| ニュージ ランド | はちみつ及びその加工品 (簡易な加工に限る。) | - | グリホサート | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるグリホサートが検出されるおそれがあるため。 |
| ネパール | とうもろこし(甘味種を除く。)及びその加工品(とうもろこしを5%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|--|--|--|-------------|--|---|
| パラグアイ | ごまの種子及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示する輸出者から輸出されたごまの種子を除く。 | カルバリル | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるカルバリルが検出されるおそれがあるため。 |
| | チアシード及びその加工品(チアシードを30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| フィリピン | 生食用ウニ | 別途指示する製造者で処理されたものに限る。 | 腸炎ピブリオ | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | 生食用鮮魚介類及び生食用冷凍鮮魚介類の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | 生食用切り身まぐろ | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | サルモネラ属菌 | 別表1の4によること。 | 平成5年3月17日付け衛乳第54号別紙1の第3の1の(3)「サルモネラ属菌試験法」によること。 | サルモネラ属菌で汚染されているおそれがあるため。 |
| | おくら及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示する輸出者から輸出された生鮮おくらを除く。 | テブフェノジド フルアジホップチル メタミドホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるテブフェノジド、基準値(0.01ppm)を超えるフルアジホップチル及び基準値(0.5ppm)を超えるメタミドホスが検出されるおそれがあるため。 |
| | バナナ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示する輸出者又は包装者から輸出された生鮮バナナを除く。 | フィプロニル | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.005ppm)を超えるフィプロニルが検出されるおそれがあるため。 |
| | マンゴー及びその加工品(簡易な加工に限る。) | 別途指示するフィリピン政府が発行した証明書が添付されているものであって、かつ登録輸出者から輸出された生鮮マンゴーを除く。 | クロルピリホス シベルメトリン フェントエート | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.05ppm)を超えるクロルピリホス、基準値(0.03ppm)を超えるシベルメトリン及び基準値(0.01ppm)を超えるフェントエートが検出されるおそれがあるため。 |
| ブラジル | ブラジルナッツ加工品(ブラジルナッツを30%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて含有しているおそれがあるため。 |
| フランス | ソフト及びセミハード(MFFB61%以上のもの)タイプのナチュラルチーズ(注3) | リステリアに関する政府機関の証明書が添付されているものを除く。ただし、別途指示するものを除く。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O103 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O103で汚染されているおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O26 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O26で汚染されているおそれがあるため。 |
| | ナチュラルチーズ | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O145 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O145で汚染されているおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O157 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O157で汚染されているおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O26 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O26で汚染されているおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 腸管出血性大腸菌O111 | 別表1の4によること。 | 平成26年11月20日付け食安監発1120第3号別添「食品からの腸管出血性大腸菌O26、O103、O111、O121、O145及びO157の検査法」によること。 | 腸管出血性大腸菌O111で汚染されているおそれがあるため。 |
| | | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため及びリステリア・モノサイトゲネスに高度に汚染されているおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|---|-----------------------|--|--|---|---|
| ブルキナファソ | ごまの種子 | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| 米国 | 非加熱熟肉製品(加熱せずに食すものに限る。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | 非加熱熟肉製品の成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ソフト及びセミハード(MFFB61%以上のもの)タイプのナチュラルチーズを主要原料とする食品(加熱せずに食すものに限る。)(注3) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | ソフト及びセミハード(MFFB61%以上のもの)タイプのナチュラルチーズ(注3) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | リステリア・モノサイトゲネス | 別表1の4によること。 | 平成26年11月28日付け食安発1128第3号別添「リステリア・モノサイトゲネスの検査について」によること。 | ナチュラルチーズの成分規格に適合しないおそれがあるため。 |
| | とうもろこし(粉を含む、甘味種を除く。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | (1) 容器包装に入れられたものについては、別表2によること。 (2) 本船にバルク形態で積載されたものについては、次のとおりとする。 ハッチにおいてサンプリングを行う場合、上部、中部、下部の各層において15か所から計10kg以上を採取したものを縮分して5kgとし、それぞれ1検体(合計3検体)とする。(注2) サイロ又はハシケ(以下「サイロ等」という。)においてサンプリングを行う場合には、ハッチの上部、中部、下部を搬入するサイロ等のうちそれぞれの任意の1サイロ等において、搬入する直前において適正な時間的間隔を持って15回計10kg以上を採取したものを縮分して5kgとし、それぞれ1検体とする。 コンテナにバルク形態で輸入される食品については、任意の1コンテナ内の上部、中部、下部の計15か所から計10kg以上を採取したものを縮分して5kgとし、1検体とすること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」又は平成23年8月16日付け食安監発0816第7号「トウモロコシ中の総アフラトキシンの試験法について」に示す簡易測定装置を用いた試験法によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | とうもろこし(爆裂種に限る。)及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | デルタメトリン及びトラロメトリン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.02ppm)を超えるデルタメトリン及びトラロメトリンが検出されるおそれがあるため。 |
| | 乾燥なつめやし | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて含有しているおそれがあるため。 |
| | ピスタチオナッツ及びその加工品(ピスタチオナッツを10%以上含有するものに限る。) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | 食品(平成19年7月6日付け食安発第0706002号(最終改正:平成30年11月28日付け生食発1128第4号)に示すもの。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | 放射線照射 | 別表1の2によること。 | 平成19年7月6日付け食安発第0706002号「放射線照射された食品の検知法について」によること。 | 放射線照射がおこなわれているおそれがあるため。 |

| 対象国・地域(注1) | 製品検査の対象食品等 | 条件 | 検査の項目 | 試験品採取の方法 | 検査の方法 | 検査を受けることを命ずる具体的理由 |
|------------|--|-------------------------|--|-------------|---|--|
| ベトナム | 青とうがらし及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | プロピコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるプロピコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | 赤とうがらし及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | プロピコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるプロピコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | えび及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | エンロフロキサシン | 別表1の4によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | エンロフロキサシンが残留しているおそれがあるため。 |
| | オオバコエンドロ及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | クロルピリホス シベルメトリン プロフェノホス ヘキサコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルピリホス、基準値(0.05ppm)を超えるシベルメトリン、基準値(0.01ppm)を超えるプロフェノホス及び基準値(0.01ppm)を超えるヘキサコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | きだちとうがらし及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | トリシクラゾール プロピコナゾール ヘキサコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるトリシクラゾール、基準値(0.01ppm)を超えるプロピコナゾール及び基準値(0.01ppm)を超えるヘキサコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | きび(学名: <i>Panicum miliaceum</i>) | - | 総アフラトキシン(アフラトキシンB ₁ 、B ₂ 、G ₁ 及びG ₂ の総和) | 別表2によること。 | 平成23年8月16日付け食安発0816第2号「総アフラトキシンの試験法について」によること。 | 総アフラトキシンが10 µg/kgを超えて付着又は含有しているおそれがあるため。 |
| | にんじん及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | ヘキサコナゾール | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるヘキサコナゾールが検出されるおそれがあるため。 |
| | かわはぎ及びその加工品 | - | クロラムフェニコール | 別表1の4によること。 | 昭和34年12月厚生省告示第370号「食品、添加物等の規格基準」によること。 | クロラムフェニコールが残留しているおそれがあるため。 |
| | 水産食品(無加熱で摂取されるもの又は国内において十分な加熱(70℃以上)又はこれと同等以上)を経た上で販売されることが確認できないものに限る。) | 別途指示する業者が製造又は輸出したものに限る。 | 赤痢菌 | 別表1の5によること。 | 平成14年1月9日付け事務連絡「赤痢菌の試験法について」によること。 | 赤痢菌で汚染されているおそれがあるため。 |
| | 食品(未加工品、簡易な加工品、食用油脂、塩及び塩のみで調味したものを除く。) | 別途指示する製造者で製造されたものに限る。 | サイクラミン酸 | 別表1の1によること。 | 平成15年8月29日付け食安監発第0829010号「サイクラミン酸に係る試験法について」によること。 | サイクラミン酸が使用されているおそれがあるため。 |
| ベネズエラ | カカオ豆及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | 2,4-D | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超える2,4-Dが検出されるおそれがあるため。 |
| | | - | シベルメトリン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.03ppm)を超えるシベルメトリンが検出されるおそれがあるため。 |
| マレーシア | ゆり科野菜(ネギ属の野菜で、にんにくとくらを掛け合わせたものに限る。) | - | クロルピリホス | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるクロルピリホスが検出されるおそれがあるため。 |
| メキシコ | アボカド及びその加工品(簡易な加工に限る。) | - | ピフェントリン | 別表1の3によること。 | 平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」によること。 | 基準値(0.01ppm)を超えるピフェントリンが検出されるおそれがあるため。 |

(注1)当該国以外から輸出されたものを含む。

(注2)各検体について総アフラトキシンの検査を実施し、1検体でも10 µg/kgを超える検体が認められたロットについては、全量、食品衛生法第6条第2号違反として措置すること。

(注3)MFFBとは、脂肪以外のチーズ重量中の水分含量(%)を指し、次式で求められる。 MFFB(percentage Moisture on a Fat-Free-Basis) = $\frac{\text{チーズの水分重量}}{\text{チーズの重量} - \text{チーズの脂肪重量}} \times 100$

検査命令対象食品等

- (1) イタリア産非加熱食肉製品（リステリア・モノサイトゲネス）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：CERIANI SPA
施設番号：CE IT 96 L
製造者名：P.D.P. E COMPANY S.R.L.
施設番号：CE IT 1601 L
製造者名：AZ.AGRICOLA CA'LUMACO DI FERRI EMANUELE
施設番号：CE IT 9-861L

- (2) イタリア産ソフト及びセミハードタイプのナチュラルチーズ（リステリア・モノサイトゲネス）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：LUIGI GUFFANTI 1876 S.R.L.
施設番号：IT 01 351 CE

- (3) イタリア産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズ（リステリア・モノサイトゲネス）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：CASEIFICIO MALDERA SRL.
製造者名：ITALAT S.R.L. (NAPLE)
製造者住所：VIA CIVITA FARNESE. 25 03020 ISOLETTA
ブランド：MOZZARELA BUFFALA

- (4) イタリア産ナチュラルチーズ（腸管出血性大腸菌O26）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：COOPERATIVA PRODUTTORI LATTE E FONTINA
製造者住所：LOCALITA CROIX-NOIRE 10 11020 SAINT CHRISTOPHE (AOSTA)
製造者名：CASEIFICIO GAMBONE SNC DI EZIO GAMBONE &C
製造者住所：STRADA PROVINCIALE SAN FRANCESCO 83048 MONTELL(AV)

- (5) インド産紅茶（ヘキサコナゾール）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：RAGHUNATH EXPORTERS
製造者名：SPICE HOME INDIA

- (6) インドネシア産食用切り身まぐろ（サルモネラ属菌）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：P. T. MAKMUR JAYA SEJAHTERA
製造者名：PT. CEMERANG LAUT AMBON

- (7)韓国産養殖ひらめ及びその加工品（クドア・セブテンブクタータ）
別表 4 に掲げる養殖業者が出荷したもの。
- (8)韓国産生食用アカガイ（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (9)韓国産生食用タイラギガイ（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (10)韓国産キムチ（腸管出血性大腸菌 O103）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：DAEKWANG F & G CO.,LTD.
- (11)スイス産非加熱食肉製品（リステリア・モノサイトゲネス）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：FLEISCHTROCKNEREI CHURWALDEN AG
施設番号：CH 73765493
- (12)スペイン産非加熱食肉製品（リステリア・モノサイトゲネス）
別表 6 に掲げる製造者で製造されたもの。
- (13)タイ産生食用えび（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (14)タイ産ゆでがに（飲食に供する際に加熱を要しないものに限る。）（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (15)台湾産食品（サイクラミン酸）
別表 7 に掲げる製造者で製造されたもの。
- (16)中国産生食用ウニ（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (17)中国産乾燥ほうれんそう(エンドリン及びクロルピリホス)
別表 8 に掲げる加工企業に限る。
- (18)中国産冷凍ほうれんそう(エンドリン及びクロルピリホス)
別表 9 に掲げる加工企業に限る。ただし、クロルピリホスに係る検査命令は別表 9 に掲げる対象加工企業に限る。
- (19)中国産冷凍調理ほうれんそう(エンドリン及びクロルピリホス)
別表 10 に掲げる加工企業に限る。ただし、クロルピリホスに係る検査命令は別表 10 に掲げる対象加工企業に限る。

- (20)中国産食品（サイクラミン酸）
別表 11 に掲げる製造者で製造されたもの。
- (21)中国産食品（放射線照射）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：GUIZHOU LEEFENG HEALTH PRODUCTS CO.,LTD.
- (22)フィリピン産食用ウニ（腸炎ビブリオ）
別表 5 に掲げる製造者で処理されたもの。
- (23)フィリピン産食用切り身まぐろ（サルモネラ属菌）
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：TENPOINT MANUFACTURING CORPORATION
- (24)フランス産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズ（リステリア・モノサイトゲネス）
別表 12 に掲げる製造者で製造されたもの。
- (25)フランス産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズ(腸管出血性大腸菌 O103)
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：S.A.R.L. LE PIC
施設番号：FR 81 206 009 CE
製造者住所：81140 PENNE, FRANCE
- (26)フランス産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズ(腸管出血性大腸菌 O26)
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：HARDY AFFINEUR LAUT ETIKETT (LES FROMAGERS DE TRADITION-HARDY AFFINEUR)
施設番号：FR 41 043 003 CE
- (27)フランス産ナチュラルチーズ(腸管出血性大腸菌 O145)
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：FROMAGERIE ALPINE
施設番号：FR 26 281 001 CE
- (28)フランス産ナチュラルチーズ(腸管出血性大腸菌 O157)
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：FERME LINOL
施設番号：FR 46 145 001 CE
- (29)フランス産ナチュラルチーズ(腸管出血性大腸菌 O26)
以下の製造者で製造されたもの。
製造者名：COOPERATIVE DES MONTS DE JOUX
施設番号：FR 25 041 001 CE

製造者名：FROMAGERIE ALPINE
施設番号：FR 26 281 001 CE
製造者名：LE FROMAGER DE LA FRUITIERE DU MONT-S
施設番号：FR 74 096 050 CE
製造者名：SOCIETE FROMAGERE DU MOULIN DE CAREL
施設番号：FR 14 654 001 CE
製造者名：CHEVRERIE DE BEAUREGARD
施設番号：FR 36 018 009 CE

(30) フランス産ナチュラルチーズ（腸管出血性大腸菌 O111）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：FROMAGERIE GAUGRY
施設番号：FR 21 110 001 CE
製造者名：MONS - FROMAGER AFFINEUR - FROMAGERIE EDOUARD -
A L 'AUVERGNAT
施設番号：FR 42 232 001 CE

(31) フランス産ナチュラルチーズ（リステリア・モノサイトゲネス）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：BLANC F J
施設番号：FR 79 202 024 CE

(32) 米国産非加熱食肉製品（リステリア・モノサイトゲネス）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：DANIELE INTERNATIONAL, INC.
施設番号：EST 9992
製造者住所：105 DAVIS DRIVE PASCOAG, RI 02859
製造者名：COLUMBUS SALAME, INC.
施設番号：EST 6032
製造者住所：493 FORBES BLVD. S. SAN FRANCISCO, CA 94080

(33) 米国産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズを主要原料とする食品（リステリア・モノサイトゲネス）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：DANIELE INTERNATIONAL, INC.
施設番号：EST 459
製造者住所：180 DAVIS DRIVE PASCOAG, RI 02859

(34) 米国産ソフト及びセミハード（MFFB61%以上のもの）タイプのナチュラルチーズ（リステリア・モノサイトゲネス）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：CRAVE BROTHERS FARMSTEAD CHEESE ,LLC 又は、
CRAVE BROTHERS FARMSTEAD CHEESE COMPANY
製造者住所：W11555 TORPY ROAD WATERLOO, WI 53594-9652

(35)米国産食品（放射線照射）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：DEAN & DELUCA BRANDS,INC.

(36)ベトナム産水産食品（赤痢菌）

以下の製造者で製造されたもの。

製造又は輸出者名：EASTERN SEA CO., LTD.

住 所：1719A 30/4 ST-VUNG TAU CITY, VIETNAM

(37)ベトナム産食品（サイクラミン酸）

別表 13 に掲げる製造者で製造されたもの。

検査命令免除食品等

(1) カナダ産ロブスター及びその加工品（麻痺性貝毒）

以下のURLに掲載される輸出者から輸出されたもの。

・ Canadian Food Inspection Agency ホームページ

<https://inspection.gc.ca/exporting-food-plants-or-animals/food-exports/food-export-requirements/japan-fish-and-seafood/live-lobster-and-lobster-tomalley-products/eng/1304466360823/1304466626301>

(2) 韓国産豚肉（スルファジミジン）

別表14に掲げる処理場において処理されたもの。

(3) 韓国産養殖ひらめ及びその加工品（オキシテトラサイクリン、エンロフロキサシン）

別表15で示した登録養殖場で養殖され、かつ登録輸出者から輸出されたもの。養殖加工ひらめについては、別表15で示した登録養殖場で養殖されたひらめを登録加工場で加工し、かつ登録輸出者から輸出されたもの。

ただし、以下の から の養殖場については、エンロフロキサシンに係る検査命令を免除しない。また、 から の養殖場については、オキシテトラサイクリンに係る検査命令を免除しない。

先進水産（登録番号：K - F - J N - 3 0 7）

一子水産（登録番号：K - F - J N - 3 7 9）

孝賢水産（登録番号：K - F - J N - 3 8 2）

廣林水産（登録番号：K - F - C J - 6 4 9）

海龍水産營漁組合法人（登録番号：K - F - C J - 3 3 2）

宣佑水産（登録番号：K - F - C J - 4 0 5）

泰興養食（登録番号：K - F - C J - 2 9 1）

(4) 韓国産生鮮青とうがらし（フルキンコナゾール）

別表16に掲げる輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出されたもの。

(5) 韓国産生鮮トマト（フルキンコナゾール）

別表17に掲げる輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出されたもの。

(6) 韓国産生鮮ミニトマト（フルキンコナゾール）

別表18に掲げる輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出されたもの。

(7) 韓国産生鮮パプリカ（クロルピリホス）

別表19に掲げる輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出されたもの。

(8)韓国産生鮮まくわうり（クロルフェナピル）

以下の輸出者IDの登録がされた輸出者から輸出されたもの。

輸出者ID：01

輸出者名：NH TRADING CO.,LTD.

輸出者住所：7, Olympic-ro 48-gil, Gangdong-gu, Seoul

(9)タイ産生鮮おくら（EPN）

別表20に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(10)タイ産生鮮グリーンアスパラガス（EPN）

別表21に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(11)タイ産生鮮バナナ（シペルメトリン）

別表22に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(12)タイ産生鮮マンゴー（クロルピリホス、プロピコナゾール）

別表23に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(13)タイ産冷凍カットマンゴー（クロルピリホス、プロピコナゾール）

別表24に掲げる製造者で製造されたもの。

(14)タイ産フリーズドライマンゴー（クロルピリホス、プロピコナゾール）

以下の製造者で製造されたもの。

製造者名：Chanthaburi Global Foods Co.,Ltd.

(15)タイ産生鮮マンゴスチン（イマザリル）

別表25に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(16)台湾産豚肉（スルファジミジン）

別表26に掲げる処理場において処理されたもの。

(17)中国産養殖鰻及びその加工品（オキシロニック酸、スルファジミジン）

養殖活鰻

別表27に掲げる養殖場で養殖されたもの。

養殖鰻加工品

別表28に掲げる養殖場で養殖された鰻であり、かつ同表に掲げる加工場で加工されたもの。

ただし、同表に関わらず、下記の加工場については、スルファジミジンに係る検査命令を免除しない。

加工場名：CHANGLE JUQUAN FOODS CO., LTD.

住所：LIYUSHAN HESHAN TOWN, CHANGLE CITY, FUJIAN CHINA

(18)パラグアイ産ごまの種子（カルバリル）

別表29に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(19) フィリピン産生鮮おくら（テブフェノジド、フルアジホップ、メタミドホス）
別表30に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(20) フィリピン産生鮮マンゴー（クロルピリホス、シベルメトリン、フェントエート）
別表31に掲げる輸出者から輸出されたもの。

(21) フィリピン産生鮮バナナ（フィプロニル）
別表32に掲げる輸出者又は包装者から輸出されたもの。